

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業に関する面談
2. 日時：令和4年5月31日(火) 15時10分～16時30分
3. 場所：原子力規制庁6階会議室
4. 出席者  
原子力規制庁  
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
澁谷企画調査官、正岡管理官補佐、松田室長補佐、横山係長、塩唐松係員  
大辻室長補佐(テレビ会議システムによる出席)  
福島第一原子力規制事務所  
高松原子力運転検査官(テレビ会議システムによる出席)  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
福島第一原子力発電所 担当3名(テレビ会議システムによる出席)
5. 要旨
  - 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替えの進捗状況について、資料に基づき、以下の説明があった。
    - 2022年5月19日に移替え対象HIC(積算吸収線量が5,000kGyを超過したHIC)のうちSr-90濃度が最も高い4基目の移替え作業が完了したこと。
    - 4基目の移替え作業実績について
      - ✓ ダスト濃度測定結果
        - ◇ 移替え対象HIC4基目のスラリー移替え作業中において、ダスト濃度は上昇したものの、ダスト高警報未満であり、作業員の被ばく線量も管理値未満であったこと。
      - ✓ 移替え作業後のスラリーについて
        - ◇ 現場作業状況より中部抜き配管(HIC底部から約37cm)までHIC内の液体状の放射性物質を抜出していることを確認したこと。
        - ◇ 底部抜き配管(HIC底部から2cm)を用いた際、流動性が低くなり、移送開始初期は少し抜きしができたものの、その後は抜きを行うことは出来なかったため、HIC底部から37cm以下にスラリーが残留していると思われること。
    - 今後の予定
      - ✓ 今後、HIC1基/週の頻度で移替え作業を進めていくこと。
  - 原子力規制庁は、上記説明内容を確認するとともに、以下についてコメントした。
    - これまでの移替え作業の実績から、HIC底部にスラリーが残ることがあることがわかったため、今後、移替え作業を進めるにあたりHIC内に残ったスラリーのリスク評価(ダスト飛散、上澄み水減少による被ばく線量増加など)を行うとともに、このリスク評価に基づき保管管理方法についても十分検討すること。
    - 残りの移替え対象HICの作業工程が決まり次第、今後の作業予定を原子力規制庁へ示すこと。
6. 資料
  - HICスラリー移替えの進捗状況